

平成20年7月3日  
気 象 庁

## 気象庁における熱中症対策に関する取り組み

気象庁は、大雨や暴風、地震、津波、火山噴火などの自然現象を常時観測するとともに、各種情報を発表することによって、災害の防止・軽減、交通安全の確保、産業の発展への寄与、国民生活の利便の向上、地球環境問題対策への寄与等を図っています。

気象庁における熱中症に関する取り組みは、以下のとおりです。

### 1. 気温の予報

日々の天気予報において、全国171の代表的な地域の最高気温等の情報を提供するとともに、民間気象事業者等が熱中症に関連したサービスに活用できるよう、気温等の観測・予測データを提供します。

### 2. 地方自治体との連携

埼玉県、沖縄県においては、自治体からの要請に基づき、気象庁が発表する情報の中で熱中症への注意を呼びかける基準を設けた運用を行っています。

#### (イ) 埼玉県

埼玉県においては、さいたま市、熊谷市、秩父市のいずれかの市において、朝の最低気温が約25℃以上となり、日中の最高気温が37℃を超えると予想した場合には、熊谷地方気象台が『高温に関する埼玉県気象情報<sup>1</sup>』を発表しています(具体的な情報発表例は別紙1参照)。同情報が発表された場合、埼玉県及び熊谷市では、所管する関係機関に同情報を伝達することとなっています。

#### (ロ) 沖縄県

沖縄県においては、沖縄県熱中症予防対策連絡会議において、熱中症予防に関する連携を求められたことを受け、その日の予想気温が33℃以上又は33℃以上の気温を観測した場合には、該当する地域に対して天気予報の中で熱中症に対する注意喚起を行う基準を設けた運用を行っています。

<sup>1</sup>『府県気象情報』は、観測成果の発表や予報事項に関する情報を一般及び関係機関に対して発表し、円滑な防災活動が実施できるように防災機関や一般の住民を支援することで、公衆の利便を増進させることを目的として発表しています。

### 3. 次世代アメダスの整備（新規）

気象庁では、平成19年から次世代アメダスの整備を進めています。アメダスは、昭和49年から運用を開始した降水量、気温などを自動的に観測するシステムです。

これまでアメダスでは、日最高気温は10分ごとの観測値から求めてきましたが、次世代アメダスでは、10秒ごとの観測値から求めることにより、熱中症対策の基礎となる気温データの充実を図りました。

平成20年3月時点で全国約230カ所に次世代アメダスを整備しており、今後も次世代アメダスの整備を拡充する予定です。

### 4. 異常天候早期警戒情報の提供（新規）

異常天候早期警戒情報は、季節外れの高温といった社会経済活動に大きな影響を及ぼす天候の発生する可能性について、できるだけ早い段階で予測情報として発表し、その天候によって受けるリスクを軽減することを目的とします。

平成20年3月21日より、情報発表日の5日後から14日後までを対象として、関東甲信など地方予報区の7日間平均気温が平年より「かなり高い」または「かなり低い」気温となる確率が30%を超えると予測した場合に、その確率や注意事項などを情報文として発表しています。

異常天候早期警戒情報の情報文の例は別紙2、気象庁ホームページにおける表示例は別紙3のとおりです。

「高温に関する埼玉県気象情報」の発表例

高温に関する埼玉県気象情報 第1号

平成19年8月16日05時00分 熊谷地方気象台発表

(見出し)

埼玉県では、昨日(15日)に引き続き今日(16日)日中も気温が高くなり、予想最高気温は熊谷市で38度となる見込みです。熱中症などに注意して下さい。

(本文)

16日朝の最低気温は、埼玉県の各地で25度以上となりました。

本州付近は、今日(16日)も引き続き太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇し、厳しい暑さになる見込みです。予想最高気温は熊谷市で38度、さいたま市や秩父市で36度となる見込みです。屋外での活動、熱中症など健康管理に十分注意してください。

「異常天候早期警戒情報」の例

高温に関する異常天候早期警戒情報（東海地方）

平成〇〇年7月6日14時30分

名古屋地方気象台 発表

要早期警戒

警戒期間 7月11日頃からの約1週間

対象地域 東海地方

警戒事項 かなりの高温（7日平均地域平年差+1.9℃以上）

確率 30%以上

7月11日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上となっています。

農作物の管理や健康の管理等に注意して下さい。また、今後の気象情報に注意して下さい。

なお、本情報は7月11日から7月20日までを検討対象としています。

【気象庁ホームページに掲載する地図表示(上)と確率予測資料(下)の例】

気象庁  
Japan Meteorological Agency

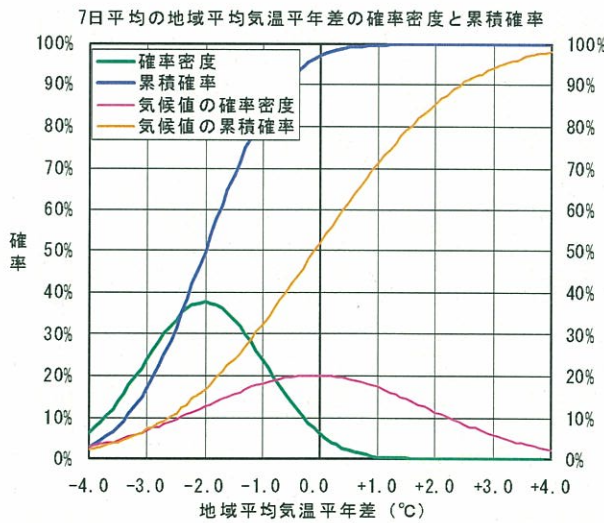
異常天候早期警戒情報

平均気温 平成19年7月6日発表  
情報の対象期間: 7月11日~7月20日  
「かなり高い」または「かなり低い」確率が30%以上の地域  
地域名の下に示す期間は、30%以上と予測される期間  
詳しく情報が発表された地域は、選択(情報閲覧)可能となります。

かなり高い確率  
30%以上  
30%未満  
30%以上  
かなり低い確率

北海道 7/11頃からの約1週間  
東北 7/11頃からの約1週間  
関東甲信 なし  
東海 なし  
西国 7/12頃からの約1週間  
九州北部 7/12頃からの約1週間  
九州南部 7/12頃からの約1週間  
沖縄 7/13頃からの約1週間  
奄美 7/13頃からの約1週間

このページのトップへ



確率予測資料の例。平成19年7月6日に予測した東北地方の7月11日からの7日間平均気温平年差の確率密度(緑線)と累積確率(青線)。この図では、例えば、横軸の気温平年差 $-2^{\circ}\text{C}$ では、累積確率を示す青線は確率50%となります。これは、気温平年差が $-2^{\circ}\text{C}$ 以下となる確率が50%であると予測されていることを示します。また、黄線で示す過去30年分の観測値から求めた気候的な累積確率( $-2^{\circ}\text{C}$ 以下)の約17%に比べ、大きな確率で予測されていることがわかります。

